

普及指導員調査研究報告書

課題名：「せとみ」の高品質生産技術の実証

農林総合技術センター技術指導室 担当者氏名：原田直

<活動事例の要旨>

山口県のオリジナル柑きつ「せとみ」の生育調査、果実品質調査を各産地で実施し栽培指導に活用した。高品質果実生産を目的とした梅雨明け時期からの白黒マルチ被覆により着色の向上が認められた。

1 普及活動の課題・目標

山口県のオリジナル柑きつ「せとみ」は、産地の振興を牽引するブランド力のある柑きつとなるよう推進品種に定め、生産拡大の取組を進めており、品質向上による商品力の強化と安定収量確保が課題となっている。

産地の実情に応じてせとみの生育、果実品質等の調査と、高品質果の連年生産技術を検討する。

2 普及活動の内容

(1) 生育調査

ア 調査ほ場の設置

現地調査ほ場について各農林事務所で設置し調査した。

イ 調査期間

平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月

ウ 調査方法

生育調査は発芽期、開花期について 4～5 月に調査した。

果実調査は果実肥大を 7～11 月にかけて毎月 20 日に、果汁成分について 1 月 20 日、2 月 20 日に調査した。

(2) 白黒マルチ設置と果実品質

ア 調査ほ場の設置

現地調査ほ場について各農林事務所で設置し調査した。

イ 調査期間

平成 26 年 7 月～平成 27 年 3 月

ウ 調査区の設置と調査方法

表 1 処理区のマルチ被覆時期と調査日、かん水方法

	被覆時期※	果実品質調査	かん水方法
周防大島町久賀	7 月 20 日	2 月 12 日	マルドリかん水、施肥
防府市大道	7 月中下旬	2 月 24 日	かん水パイプ
下関市永田郷	7 月中旬	1 月 20 日	点滴かん水

※白黒ポリマルチ（幅 1.8m、厚さ 0.05mm）で主幹部を 30cm 開けて被覆

3 普及活動の成果（調査結果）

（1）生育調査・概況

発芽期は平年並みで、開花期は平年と比べやや早くなった。

産地での着花は裏年で少なく、着果も少なくなった。

果実肥大は、平年より大きく推移した。

果実品質では、糖度は平年よりやや低く、酸度は平年並みとなった。

12月の気温が平年より低くなり着色は遅れた。

周防大島では2月上旬から収穫を開始し、2月中旬にほぼ収穫を終えた。

萩では1月末から2月上旬、下関では2月中旬から3月上旬で収穫した。

1月1日～3日、2月9日、14日に最低気温が -3°C 以下になったアメダス地点があり、低温の影響が一部で見られた。

ア 生育時期

表2 発芽期、開花期

調査地点	発芽期	開花期		
		始	盛	終
柑きつ振興センター (平年)	4/8	5/16	5/22	5/27
柑きつ振興センター	4/8	5/12	5/19	5/25
岩国市通津	4/20	5/20	5/24	6/1
周防大島町久賀	3/31	5/6	5/14	5/23
防府市富海	4/11	5/19	5/24	5/29
下関市永田郷	4/2	5/7	5/12	—
萩市大井市場	4/4	5/12	5/19	5/27

イ 果実ヨコ径の推移 (mm)

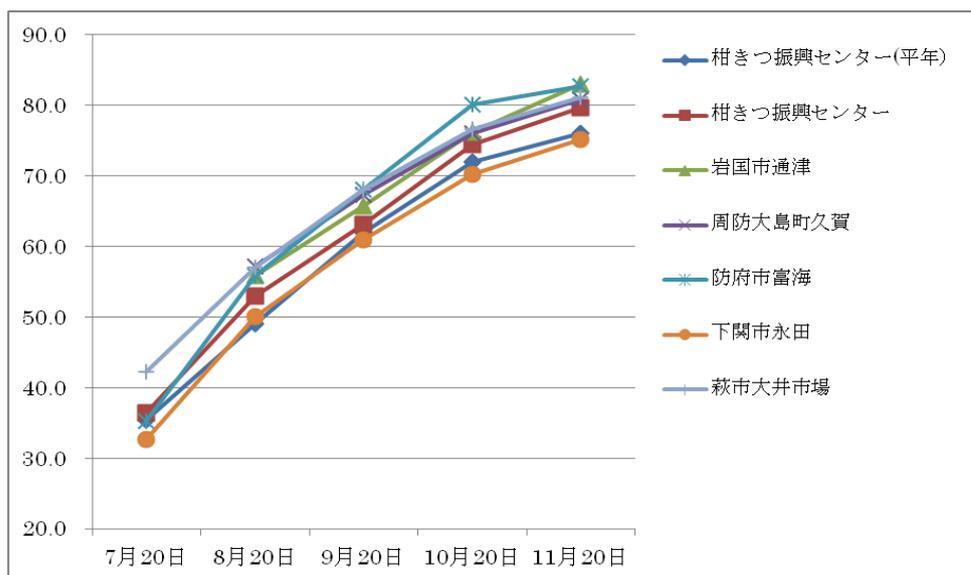


図1 果実ヨコ径の推移

ウ 果実品質調査

表3 果実品質

調査地点	1/20			2/20		
	糖度	酸	糖酸比	糖度	酸	糖酸比
柑きつ振興センター (平年)	13.9	1.44	9.7	14.9	1.26	11.8
柑きつ振興センター	13.0	1.42	9.2	13.5	1.28	10.5
岩国市通津	12.7	1.75	7.3	—	—	—
周防大島町久賀	13.0	1.37	9.5	13.4	0.98	13.7
防府市富海	11.5	1.84	6.3	13.4	1.24	10.8
下関市永田郷	14.0	1.41	9.9	—	—	—
萩市大井市場	13.1	1.49	8.8	12.5	1.35	9.3

※岩国2月2日調査

(2) 白黒マルチ被覆と果実品質

周防大島町の調査ほ場では、収量、1果平均重量で無処理区と比べマルチ区で多くなった。

糖度、クエン酸は無処理区と比べマルチ区でやや低くなった。降水量で平年対比の8月に多くなった後、9月は少なくなり、マルチ区では水分が多い状態が続いたのに対し無処理では乾燥したためと推察された。

防府市、下関市の調査ほ場では、果実品質で糖度14度以上、クエン酸1.3~4となった。

表4 白黒マルチ設置と果実品質

調査地点	調査日	処理区	収量 (kg/樹)	1果平均重量 (g)	糖度 (Brix%)	クエン酸 (%)	完着果 (%)
周防大島町久賀	2/12	マルチ	34.0	175.8	13.5	1.01	79.9
周防大島町久賀	2/12	無処理	26.9	162.3	14.1	1.22	79.5
防府市大道	2/24	マルチ	—	—	14.2	1.37	完着
下関市永田郷	1/20	マルチ	—	—	14.0	1.41	—

4 今後の普及活動に向けて

今年のせとみの生産量は稔年で少なくなり、樹冠が拡大した園地も多い。今後の栽培管理では、樹高が高く、密植となった園地ではまずは縮伐、間伐を行う。表年のせん定方法、土壌改良等を行い樹勢を維持し、連年安定結果を目指して着果管理、樹勢向上対策に取り組む。

白黒マルチの設置と果実品質については、周防大島町の調査ほ場では、肥大促進と減酸効果が認められたが、糖度はやや低くなった。今年は8月の降水量が平年と比べて多くなり、点滴かん水量の調整等のきめ細かな管理が必要と思われた。